

交渉情報	NO.46	信越支社郵便事業本部 オペレーション部
JP労組 信越地方本部	2012年11月7日	添付資料:9枚

H24りんごゆうパックオペレーションについて

信越支社郵便事業本部オペレーション部は、本日（11月7日）「H24りんごゆうパックオペレーション」について地方本部に説明してきました。

標記は、10月31日発出（交渉情報 NO.44）の中で、施設及び運送便ダイヤ等について整理していますが、別途説明としていた「時間帯別・あて地別・重量別」の取扱数の把握を行なうものです。

取扱量を把握する理由は、早い時間帯（概ね16:30）へ引受・集荷を移行することに伴い、時間帯別の取扱量に変化が生じる。従って、今年度中の運送便の見直し及び次年度以降のより効率的な運送便の設定を行なうためとしています。

別紙1では、昨年までの状況・問題点とH24年度の改善点によって期待される効果及びオペレーションのイメージ、別紙2ではお客さまへのお知らせが記されています。

別紙3は郵便局用の引受数日報、別紙5は旧集配センター用の引受数日報を示し、「時間帯」は1時間毎、「あて地」は5分割、「重量」は5・10Kgとそれ以外の重量であり、該当欄に個数を記入する様式となっています。別紙4及び別紙6は記入例です。

別紙7は引受個数の把握・報告を要する郵便局・旧集配センター及び分室・集積所一覧、別紙8は引受数の報告フローを示しています。

地本では、早い時間帯（昼間帯）での集荷等の移行は、交通渋滞を避けられることや交通事故防止対策、スムーズな作業の流れにつながることから、十分なお客さま対応がはかられた上で、変更については理解するところです。

しかし、取扱量の把握については効率的な運送便設定のためとしながらも、120万個の「りんごゆうパック」について把握することは、例年並の要員措置では困難であると申し入れるとともに、どの様な把握の方法があるか質しました。

併せて、仕分けラベルを作成する際の端末機への入力時において、取扱量把握に必要なデータは揃うのではないかと質しました。

支社は、取扱量を把握するためだけの専門要員の配置は考えていないとしながらも、

当然、作業量が増加することから、取扱量を把握する郵便局において要員措置は必要としました。

また、取扱量把握の一例として、「あて地」毎にパレットを設定し、そのパレットにメモ用紙等を取り付け、区分時に数を記入する等の方法を説明しました。なお、端末機入力では「あて地」情報が把握できないとしています。

更に、地本は当該局で検討した必要要員は、自動的に承認するよう求めており、支社も理解を示しています。

当該支部は以上を理解いただき、分会指導を要請します。

【労使対応】 以下の当該局における単局窓口
(長野東・長野中央・長野南・須坂・信州中野・上田・佐久・小諸・千曲・松本南・松本・穂高・大町・豊科・飯田・伊那・駒ヶ根局)